



目次

- ◇青森まるっとよいどころ祭り — 青森ひみつ発掘!リンゴだけじゃねえべ? — 1
 地域貢献産業交流事業(物産展)開催報告
- ◇青森まるっとよいどころ祭り 開催までの道のり..... 2
- ◇創業をお考えの方へ 3
- ◇イノベーション・ネットワークあおもり 連携アドバイザー養成講座..... 3
- ◇2014年度公開講座 報告 4

**青森まるっとよいどころ祭り — 青森ひみつ発掘!リンゴだけじゃねえべ? —
 地域貢献産業交流事業(物産展)開催報告**

2014年10月4日(土)青森市新町商店街において、本学主催、香取薫(学長兼地域研究センター長)研究室プロデュース、新町商店街振興組合後援の物産展『青森まるっとよいどころ祭り — 青森ひみつ発掘!リンゴだけじゃねえべ? —』を開催いたしました。新町商店街振興組合主催の「しんまちフェスタ 青い森のハロウィン」等の催し物も同日開催され、多くの方にご来場いただき、大盛況のうちに終了しました。

当日は、県内から青森市、鱈ヶ沢町、おいらせ町、風間浦村、佐井村、七戸町、南部町、西目屋村の計8市町村に出店のご協力をいただきました。各ブースでは、青森の豊かな自然から恵みを受けた新鮮な野菜や海産物をはじめ、新名物となり得る食品や工芸品が多く販売されていました。ご来場いただいたお客様は、その味はもちろん、今まで知らなかった青森の魅力に気づいた様子で、満足していただけたようでした。

学生が企画した各自治体の魅力を発信する「我がまちいいとこ自慢コーナー」は、地域住民の皆様には青森の魅力を再確認・再発見し、実際に様々な場所に訪れていただきたい気持ちから企画されました。各自治体の方から自治体の概要やアクセス情報、自慢の製品の紹介、今後予定されている祭りなどの催し物をご紹介いただきました。今まで知らなかった魅力的な情報は、ご来場いただいたお客様だけでなく、学生や教職員も聞き入り、訪れてみたいという気持ちになっていました。

本物産展は、本学の2014年度地域貢献事業の1つに位置づけられます。今後も本学が主体的に地域に貢献すべく事業を展開して参ります。どうぞご期待ください。



青森まるっとよいどころ祭り — 開催までの道のり —

プロデュースが決まった学生は、企画書等の必要な資料をすべて一から作成し、全8市町村を実際に何度も訪れました。電話でのアポ取りや企画説明、参加交渉から始め、参加して下さる自治体には、聞き取り調査や道の駅などの物産販売所へ視察に訪れました。打ち合わせの中で出たご質問やご意見に対応すべく、日々資料を改良し、毎日一生懸命取り組んでいました。

企画趣旨をご理解いただき、ご協力いただいた自治体の方からは、物産展を成功させるためのご提案も多くいただくことができました。



今回の企画で大きな課題となったのは、一過性の催し物で終わらせることなく、継続的な地域貢献を実現させることでした。物産展に出店した経験をもつ自治体も多く、聞き取り調査によってこの問題が浮かび上がりました。

様々な調査に基づき、学生同士の打ち合わせを重ねた結果、目玉企画として、学生が普段の勉学や活動から得た知見を反映させたPOPや看板を手作りで作製することが決まりました。

各ブースに当日用意したPOPは、それぞれの製品の形を模り、学生が調べたそれぞれの産品の特徴を手書きで書き入れました。それらのPOPを物産展終了後にお持ち帰りいただくことにより、通常の販売時にも宣伝としてご利用いただけるように工夫しました。

看板には、自治体の観光スポットなどの魅力を写真を交えて紹介し、ご来場いただいたお客様に、その地を実際に訪れてみたいと思っただくための工夫を凝らし、地域の情報を発信しました。



地域の産品に対する評価を確認するために、ご来場いただいたお客様に対するアンケート調査も行いました。多くの方にご協力いただき、お礼として学生がデザインした特製エコバッグをプレゼントしました。アンケートの結果は、報告書としてまとめられ、各自治体や出店者の皆様へフィードバックされます。継続的な地域貢献をどのように実現していくのか、今後の取り組みが期待されます。

物産展では、思いがけない地域連携も誕生しました。おいらせ町で提供されていたパンと鱈ヶ沢町の鮎の塩焼きとをコラボレーションさせた『鮎ドッグ』が試作され、学生が試食しました。販売はされませんでしたでしたが、自治体同士の交流のきっかけになり、それぞれの担当者の方は、今後も継続してこのような企画によって地域のつながりを強めていきたいと話していました。今後、将来の新しい産品が誕生するかもしれません。

この度の物産展では、多くの方々からのご協力によって無事に終えることができました。関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。今後も、本学が主体的に地域貢献のために活動し、今まで以上に地域の皆様の連携支援に協力して参りたいと思います。

今後の活動にもご期待ください。



創業をお考えの方へ

今年度6月に青森市が政府により認定された「青森市創業支援事業計画」において、本学まちなカラボが連携支援機関として創業のお手伝いを行います。

政府は今後10年間で開業率を10%にすることを目標としており、具体的施策として平成26年1月に施行された「産業競争力強化法」に基づいて市町村が地域の創業支援事業者と連携して行う創業支援の事業計画について、国の認定を受けることで創業にかかる一定の費用軽減などのメリットを提供するものです。

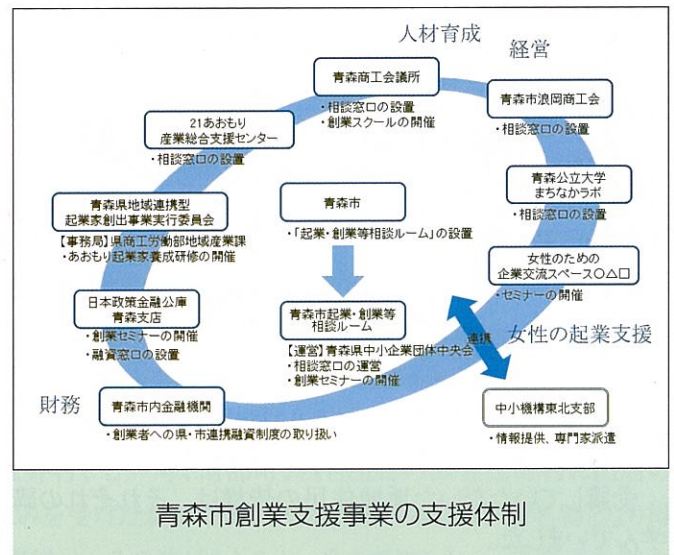
青森市を中心として、青森市起業・創業等相談ルーム、(公財)21あおり産業総合支援センター、青森商工会議所、青森市浪岡商工会、青森県地域連携型起業家創出事業実行委員会、(株)日本政策金融公庫青森支店、女性のための企業交流スペース〇△□および、まちなカラボが連携して行います。

この計画では、創業支援の専門家などによる窓口相談や、創業にかかる知識の習得を目的とした研修・セミナーを受講した一定の創業者について、市が証明書を発行することで以下のような支援が受けられます。

- ①株式会社を設立する際の登録免許税が軽減
(創業前の方が対象)
- ②創業関連保証枠の拡充
(事業開始6ヶ月から創業後5年未満の方が対象)
- ③創業関連保証枠の利用期間の特例(同上)

連携機関により、それぞれ実施する支援内容が異なります。まちなカラボでは、中小企業診断士兼インキュベーション・マネージャーの研究員が対応いたします。

創業に関して、お気軽にお問い合わせください。



イノベーション・ネットワークあおり 連携アドバイザー養成講座

地域産業の振興のため、大学の技術シーズを民間で活用し、自治体及び金融機関が支援を行う産官学金連携の重要性が増しています。

青森県では「イノベーション・ネットワークあおり」が地域産業のイノベーション促進の一翼を担っており、本学も企業の経営支援の側面から作業部会であるタスクフォースに参加しています。

産官学金連携では、財務面から企業と直接コミュニケーションを行う金融機関の存在は特に重要で、金融機関職員が新たな分野へ挑戦する企業の掘り起こしをすることが大切です。そこでイノベーション・ネットワークあおりでは7月16日・17日、9月2日の3日間にわたり、金融機関職員を中心とした方々に新規分野への目利き力を養っていただくよう、「イノベーション・ネットワークあおり連携アドバイザー養成講座」が行われました。

講座では帯広、高知、長野、山形などから一線の連携仕掛け人たちを講師に迎え、地域産業の育成事例や地域特性の発見などを通じて産官学金連携における企業支援の在り方を考えました。

本学からは栗村主任研究員が「中小企業新分野進出をどう支援していくか」をテーマとしたグループディスカッションのファシリテーターを務め、グループの意見を引き出しながら、本県産業の将来的な在り方を模索していました。



グループディスカッションでファシリテーターを務める栗村主任研究員(中央)

2014年度公開講座 報告

本年度の公開講座は、現在までに2つの講座が開講されました。講座後のアンケートでは、多くのご意見・ご感想をいただきましたので、一部をご紹介します。

◆大学院公開セミナー「グローバル化時代の地域社会 第2弾」—青森経済活性化提言—

本講座では、フェスティバルシティ・アウガ5階のカジュアル研修室で6月から7月にかけて開講されました。昨年度に引き続き、「グローバル化時代の地域社会」をテーマに、本学大学院の担当教員が各自の専門的視点から「青森の課題」を示し、具体的な解決策を提起しました。

すべての回において、受講生である地域住民の皆様からの多くのご意見やご質問をきっかけに、活発な議論が展開され、大盛況のうちに終了しました。

延べ165名の方に受講いただき、多くのご好評をいただきました。

ご意見・ご感想

- ・素晴らしい内容だった。難しい内容だったが、先生の説明が良かった。機会があればまた受講したい。
- ・グローバル化時代における青森県の活性化を図るための動機づけとなった。



◆外国語会話講座 — 観光英語・ビジネス英語・TOEIC対策 —

本講座は、青森公立大学で8月から11月上旬にかけて、観光英語（初級・中上級）、ビジネス英語（初級・中上級）、TOEIC対策（500点・700点）と昨年度から1コース増やし、全6コースが開講されました。

受講していただいた地域住民の皆様は、それぞれの講師や他の受講生の方との英語コミュニケーションを楽しみながら学んでいました。

延べ66名の方に受講いただき、多くのご好評をいただきました。

ご意見・ご感想

- ・日頃勉強する機会が無いので、今回のこの講座はとても役に立ちました。ありがとうございました。
- ・楽しく過ごせて良かったです。ありがとうございました。



多目的サテライト 青森公立大学まちなかラボ



本学の教職員・学生とともに、地域社会に関する研究、各種プロジェクトを行う際のディスカッションの場、地域振興、産学官連携に関する相談窓口として、ご利用下さい。経営相談も承ります。

〒030-0801 青森市新町1-3-7 青森駅前再開発ビル(アウガ)6階
 電話：017-718-7025 Fax：017-776-2082
 E-mail：lab@bb.nebuta.ac.jp
<http://www.nebuta.ac.jp/chiken/machinaka-lab/>
 開室時間 13:00～21:00

(毎週日曜日、年末年始、アウガ全館休館日、5～8階公共施設休館日は、休業いたします。)